

授 業 科 目 名	保育内容指導法 (環境)	教 員 名	坂倉 真衣	免許・資格 との関係	小学校教諭	選択
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	選択
科 目 番 号	FOI205	配当年次	2年前期	卒 業 要 件	小幼コース	選択必修
単 位 数	2単位				幼保コース	必修
科 目 目 的	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)					
一 般 目 標	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。					
到 達 目 標	<p>(1)領域「環境」のねらい及び内容について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</li> <li>2)領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</li> <li>3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</li> <li>4)領域「環境」において、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</li> </ol> <p>(2)領域「環境」の指導方法と保育の構想について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</li> <li>2)領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</li> <li>3)指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</li> <li>5)領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</li> </ol>					
授 業 の 概 要	<p>領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では幼児が主体的に環境にかかわることによって、感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていくための指導法および基本的な知識を身に付ける。</p> <p>具体的には、まず、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容、その意味と意義について理解を深めるとともに、他領域との関係について知る。さらに、動植物マップづくりやおもちづくりなどの体験をしながら、幼児が「環境」と関わることによって育まれる力について、自然、人的、物的、社会的環境などの観点から理解、検討をする。さらに、実際の保育実践の検討を行うことで、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を修得する。講義の終盤では、保育指導案の作成、模擬保育を実施し、それらを幼児の発達や領域「環境」の特性から、批判的に検討し、保育を改善する視点を身に付ける。</p> <p>アクティブラーニングとして、観察や製作、保育指導案作成、保育指導案のプレゼンテーション、模擬保育、ペア・グループディスカッションなどを取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：領域「環境」のねらいと内容、領域「環境」と他の領域との関係</p> <p>保育における領域「環境」の意味と意義、保育の基本的な考え方、ねらいと内容について理解する。幼稚園教育要領解説を踏まえて、領域「環境」と他の領域「健康」「人間関係」「言葉」「表</p>					

現」の関係を理解する。(目標(1)-1))

第2回：「環境を通して行う教育」と領域「環境」

幼稚園教育要領の領域「環境」と保育所保育指針の環境の内容を踏まえて、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」について、幼児の発達を踏まえて理解する。(目標(1)-2))

第3回：自然事象と領域「環境」

幼児期における自然とのかかわりの変容、教育における自然、自然体験と成長発達との関連性、自然にかかわる保育の現状と課題について理解する。(目標(1)-2), 4))

第4回：学内動植物マップづくり

大学の近隣を散策し、身近な自然物(動物、植物など)を見つけ、それについて調べてマップを作成することで、自然環境とかかわることによって育まれる力について体験的に学ぶ。マップを作成する際には、タブレットを活用するなど情報機器の利用の仕方についても理解する。(目標(2)-1), 2))

第5回：社会生活と領域「環境」

幼児期における社会的な認識、友だちの気持ちやきまりについての社会認識、さらなる社会的認識の広がりをもたらすものについて理解する。(目標(1)-2), 4))

第6回：数量や図形と領域「環境」

入門期の算数科と「環境」における保育のつながり、領域「環境」からみた算数的活動、「数と計算」「量と測定」「図形」領域とのつながりについて理解する。入門期の算数科の学習につなぐ保育者の役割について、数を使ったゲームなどの体験を通して具体的に検討する。(目標(1)-2), 4))

第7回：生活力と領域「環境」

生活力の基盤、遊びの根本的要素、探究としての遊びの様相、生活力を高める子どもの学びについて理解する。(目標(1)-2), 4))

第8回：身のまわりの素材を使ったおもちゃづくり

身のまわりの素材を用いたおもちゃの作成し、幼児が環境とかかわって遊ぶ活動を実際に行うことを通して、生活力を高める保育について体験的に学ぶ。また、おもちゃづくりの際には、タブレットを活用してその過程を記録し、情報機器を利用した視聴覚教材の作成も行う。(目標(2)-1), 2))

第9回：保育実践の検討① 知的好奇心を育てる保育実践

生活科と「環境」における保育のつながりを理解する。さらに生活科につながる知的好奇心を育てる保育実践を知り、「知的好奇心を育てる保育」の視点からその実践を分析し、よい面と課題面などについて話し合う。(目標(1)-3), (2)-5))

第10回：保育実践の検討② 科学的探究心を育てる保育実践

理科及び社会科と「環境」における保育のつながりを理解する。さらに理科及び社会科につながる科学的探究心を育てる保育実践について知り、「科学的探究心を育てる保育」の視点からその実践を分析し、よい面と課題面などについて話し合う。(目標(1)-3), (2)-5))

第11回：保育実践の検討③ 社会性を育てる保育実践

社会性を育てる保育実践について解説し、「社会性を育てる保育」の視点からその実践を分析し、よい面と課題面などについて話し合う。(目標(1)-3), (2)-5))

第12～14回：保育指導案の作成、模擬保育の実施

保育指導案のねらいや内容及び本時案についての作成の手順や内容を理解し、自然事象、社会生活、数量や図形に着目した保育指導案を作成、模擬保育を行い、その検討を行う。(目標(1)-3), (2)-3), 4))

第15回：保育者としての専門性・環境の変化と保育の課題

本授業のまとめとして、保育者として身につけるべき専門的素養、幼児の人間性の育成について理解する。近年問題となっている保育の課題を踏まえ、変化の中で求められる保育の環境と保育者像について話し合う。(目標(2)-5))

期末試験：試験期間中に実施

<p>学生に対する 評価</p>	<p>授業時に課す演習レポートの内容20%、保育指導案の内容など課題への取り組み30%、期末試験の成績50%で評価する。          なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。          ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。          ・答案例を配布する。</p>
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)          事前学習：毎回講義後に、次回の講義内容を伝えるので、事前にテキストの関連箇所を読み、不明な点を明確にしておくこと。          事後学習：講義内容に関するレポートを課すので、次回までにまとめておくこと。また、講義内容に関して、整理し次回の授業までに理解しておくこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>なし。毎回プリントを配布します。</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>「サイエンスビュー 生物総合資料 四訂版」(監修：長野敬、牛木辰男、実教出版)</p>
<p>担当者からの メッセージ</p>	<p>「保育内容指導法(環境)」は、領域「環境」のねらい・内容を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身につけることを目標とする授業です。ねらい・内容を理解して、より長期的な視点を持って、保育的環境を設定していくためには、幅広い教養が必要です。よって、受講時までに、領域「環境」の小学校における接続教科である「生活」「算数」「理科」「社会」を始め、幅広い教養を身につけておくことを心がけてください。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p></p>